

投資先の取締役会と従業員への働きかけ

- ESGの社内浸透には、経営トップのコミットメントが不可欠との問題意識
- 取締役会メンバー向け勉強会や全社的な講演などの啓蒙活動を行う中、各企業におけるマテリアルなESG課題について問題意識を共有
- 企業の信頼を得ることにより、今後、能動的に働きかけていけるかが鍵

勉強会・講演の主要テーマ

「10年後、30年後、50年後に御社は存在していますか？」

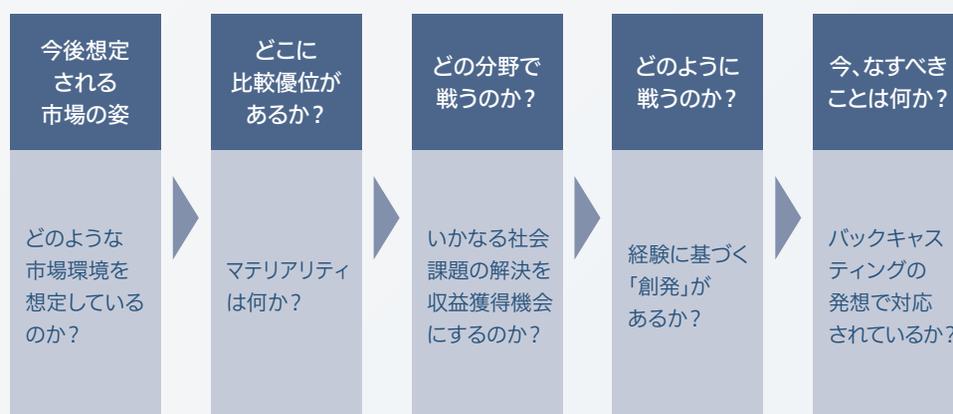
一般的な回答

存在すると思うが、今のままではいけない

対話のポイント

今のままでいけないのはどこか？
克服策を考えているのか？

克服策を考える手順



事例紹介

	企業の特徴	対話の主な内容
A社	長期ビジョンが示されていない	取締役会メンバーに対して勉強会実施。 “ESGは長期ビジョンと親和性があることから、創業の節目をイメージしてありたい姿を示すべき”とのアドバイスを行い、将来の方向性に関して課題共有が図れた事例。
B社	情報開示にメリハリがない	取締役会メンバー及び従業員に対して講演。 ESGの取組みに関して、総花的ではなくメリハリのある施策や情報開示の重要性を訴え、取組み全般を含め考え直すきっかけになった事例。
C社	強みや機会が活かしていない	CSR大会で講演。 強みを持つ研究開発力を一段と事業展開に統合する必要性を訴えた結果、研究部門ヘッドとの対話につながり、研究開発において市場観を示す重要性について課題共有を図れた事例。
D社	企業活動にESGが十分浸透していない	環境経営研修会で講演。 情報開示は先進的であるが、肝心な本業に十分活かされていない点を指摘するとともに、執行役員のESG対応評価導入を示唆し、課題共有が図れた事例。



評価・今後の方針等

ESGに対する問題意識が高い企業が多く、意見交換を通じて各企業の経営層が改善に際して悩んでいるポイントを共有出来た点は、今後のエンゲージメントに向けて非常に有益であったと考えております。企業の信頼を得ることにより、今後はより能動的に勉強会開催を働きかけていくとともに、実施企業に対する継続フォローも行っていく予定です。